

4 大仙市が誕生するまで ～市町村合併の歴史～

大仙市は、平成17(2005)年3月22日、大曲市・神岡町・西仙北町・中仙町・協和町・南外村・仙北町・太田町の8市町村が合併して誕生しました。

明治維新後、新政府は中央集権化を進めるため、明治4(1871)年の戸籍法に基づき、江戸時代から続いていた郡制を廃止し、画一的な大区・小区制を設けましたが、住民の実情や心情にあわず、明治11(1878)年に郡区町村編成法を施行し、江戸時代以来の地縁や自然集落の戸数を念頭においた、戸長役場や連合戸長役場を設置しました。

政府は、地方制度を整備するため、明治21(1888)年に市制・町村制を定め、翌年施行します。この法律によって誕生した市町村が、現代の市町村のもととなっており、これが「明治の大合併」といわれるものです。明治の大合併により、町村数は5分の1程度に減りました。

また、戦後、新制中学校の設置管理、市町村消防や自治体警察の創設の事務、社会福祉、保健衛生関係の新しい事務が市町村の事務とされ、行政事務の能率的処理のためには規模の合理化が必要とされました。そこで、昭和28(1953)年の町村合併促進法およびこれに続く昭和31(1956)年の新市町村建設促進法により、「町村数を約3分の1に減少することを目途」とする町村合併促進基本計画(昭和28年10月30日閣議決定)の達成を図ります。この「昭和の大合併」により、大曲市・神岡町・西仙北町・中仙町・協和町・南外村・仙北町・太田町の8市町村が誕生しました。

昭和の大合併後、経済成長の反面、東京一極集中が進み、国民の生活形態や意識も多様化し、公共サービスの担い手としての市町村に対する負荷が増大していきました。加えて、人口減少・少子高齢化が進展し、深刻な財政状況下において、複雑・多様化する住民サービスを提供しなければならないなど、市町村を取り巻く環境は厳しさを増していきます。このような状況を背景に、全国的に市町村合併が積極的に推進された結果、大仙市が誕生したのです。



第5大区1小区の絵図面(写し)

明治7年～9年頃 扱所: 刈和野村

刈和野 山口家文書

昭和の合併から見える 地域と議会

昭和28(1953)年10月1日から「町村合併促進法」が施行されました。町村合併により弱小町村を解消し、町村規模の適正化を図ることで、地方自治の基盤が強化され、地方行政を簡素・合理化すること、国政全般の合理的能率的運営に寄与するところが多いことから、国では、法律の施行から3年間で、それまでの市町村数を3分の1にすることを目途とし、強力に市町村合併が推進されました。

とは言っても、明治の市制町村制から60年間ほど大きな合併を経験したことのなかった自治体がほとんどでしたので、具体的な合併事務の進め方については、自治庁(当時)が合併をするための順序や検討項目、さらには先進事例などを紹介した事務提要を作成し、県を通じて全国の市町村に伝達されました。

大沢郷支所文書(大仙市アーカイブズ所蔵)の中に、秋田県総務部地方課が昭和29年3月に発行した「町村合併資料第三集」があり、こうした参考資料をたよりに合併の是非も含めて検討が進められてゆくことになりました。

昭和の合併で最初に、昭和29(1954)年5月3日に大曲町・花館村・内小友村・大川西根村・藤木村・四ツ屋村の6町村が合併し「大曲市」が誕生します。これは法律の施行からわずか6ヵ月後のことです。そして、翌年4月1日には角間川町が大曲市に合併しています。

仙北郡内のすべての町村は、大曲市に少し遅れませんが昭和30年、昭和31年に合併し、平成の合併前の市町村が誕生しました。

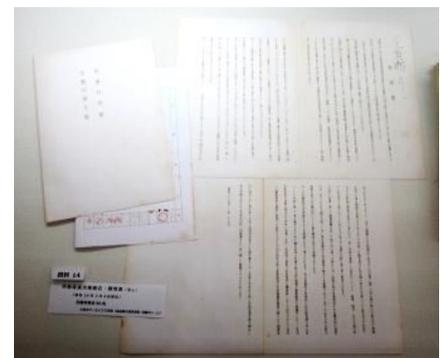
合併の必要があったことは、法律の主旨のとおりですが、この時の合併でも明治の合併の際に重要視された、地縁(歴史文化、産業経済、交流など)をベースに、市町村の範囲(区画)が決まったことは確かなことです。

今回の展示では、当時の地域住民の気持ちや議会の対応の一コマがわかる資料も紹介しています。

例えば、花館村の人々が村長と村議会に提出した陳情書には、花館村の歴史文化はもちろんのこと、大曲駅を有し、



町村合併資料 第三集(昭和29年)
大沢郷村役場文書(仮番号1669)



市制促進方策樹立・陳情(写し)
渡邊勝巳資料(仮番号2-12)



花館広報 昭和28年9月15日
渡邊勝巳資料(仮番号1-2-2)

仙北の発展に寄与してきたことを誇りに、合併の必要性を理解し、農業都市として発展するには、周辺の5カ村と一致団結した合併実現を陳情しています。

この陳情書には、人口規模による「市制」実現の時期（市の条件として3万人から5万人に変更される期限）が迫っているため、この機会を逃せば「市」は遠ざかるので…とも記載されています。

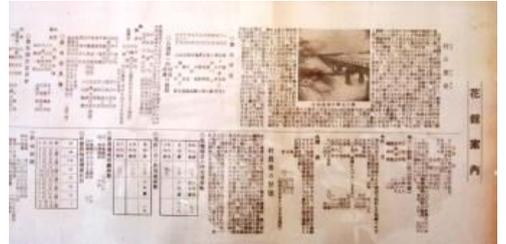
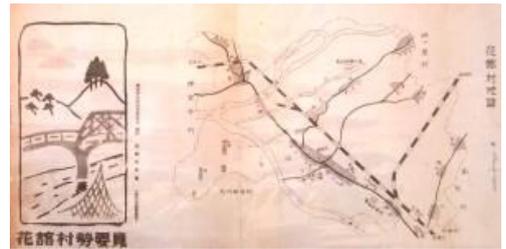
もうひとつ例を紹介します。太田村は昭和30（1955）年3月31日に長信田村、横沢村の2つの村が合併して誕生しています。

これより2ヵ月前の1月29日の長信田村の村会会議録には、議案として長野町・清水村・豊川村・豊岡村・横沢村そして長信田村の6町村で合併協議を進める「町村合併協議会規約」が異議なく原案可決されています。

しかし、その1ヵ月後の村会臨時会では、横沢・長信田の2村で「太田村」を設置することで県知事に申請する旨が異議なく可決されました。

この議案審議において、合併協議にあたった議員から「合併は交通経済、文化の発達等からして、規模の大なることを希望してきたのである。こと志と違い横沢村と合併に到達した（中略）介在地を持つ横沢村とは地理的にも、これまでの交際においても不離一体の状況にある。よって両村が合併し、今後、話し合いにより中仙地区大同合併も考慮されるので、将来努力（後略）」と説明があり、村長からは、「合併は適正規模を計画し努力したが、常に相対的に制約せられるのが現実であり、合併には時期がという問題があり、発足が早ければ、それだけ将来の発展に期するところが大きい」と説明がなされています。この結果として、長信田村と横沢村の合併が決まりました。

限られた期間に、合併を行う厳しさと現実が議事録に記載されていない行間から伺える資料です。



花館村要覧（昭和26年）

渡邊勝巳資料（仮番号1-12）



村会会議録 長信田村（昭和30年）

太田町役場文書



横沢村・長信田村合併に関する協議書（昭和30年）

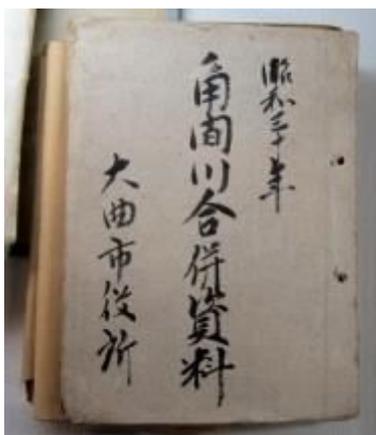
太田町役場文書

5 大曲市制施行周年事業

大曲市は、昭和29（1954）年に大曲町、花館村、内小友村、大川西根村、藤木村、四ツ屋村の6町村が合併して誕生しました。翌30年に角間川町が合併し、平成17（2005）年3月の平成の大合併で大仙市となるまでつづきます。

大曲市では、市制施行の周年事業を5周年、10周年と周期的に行っています。10周年記念事業では、文化講演会やNHK公開番組の放送演芸会を開催するなど、華やかなお祝いムードとなりました。20周年では、同時に大曲市庁舎（現大仙市本庁舎）と圏民体育館落成式が行われ、体育館においては秋田県空手道大会などが協賛されました。30周年には「緑のプレゼント会」も行われています。

大曲市制施行記念からはじまった駅伝は、現在も大仙市の記念行事として続いています。



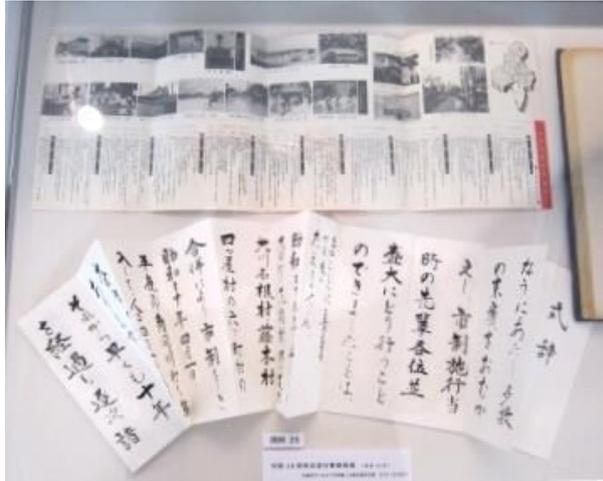
角間川合併資料（昭和30年）
大曲市役所文書（S-02-083201）



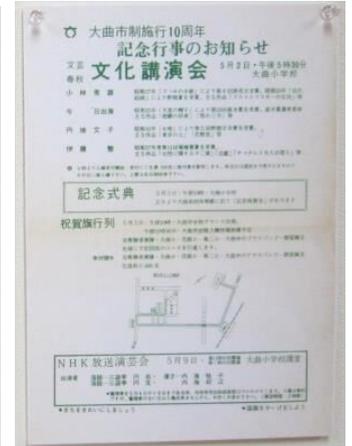
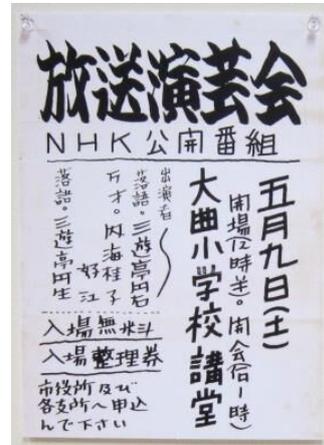
市制施行記念事ム簿（昭和29年）
大曲市役所文書（S-02-164201）



市制記念 大曲市勢要覧（昭和29年）



市制10周年記念行事関係綴（昭和39年）
大曲市役所文書（S-01-154202）



市制20周年と市庁舎、圏民体育館落成記念式典（昭和49年）
大曲市役所文書（S-05-174204）



大曲市制施行30周年アルバム（昭和59年）
大曲市役所文書（S-05-174206）